

令和 6 年度文化芸術関連事業報告書

目 次

頁	事業名
2	文化芸術振興計画管理
3	芸術文化の祭典事業
4	童謡まつり
5	サロンコンサート
6	公共施設美術品展示事業
7	古賀駅美術館事業
8	アート・バス事業
9	文化力向上事業「抽象画を描いてみよう」
10	文化力向上事業「船原古墳の宝を知ろう」
11	コレクション展事業
12	自然史・歴史講座
13	子ども歴史講座
14	企画展
15	特集展示
16	船原古墳パネル展
17	れきし体験パスポート
18	出張歴史資料館
19	図書館・歴史資料館開館30周年記念事業
20	井上泰幸のセカイ展
21	団体見学・出前授業
22	図書館まつり事業
23	読書活動促進事業
24	セカンドブック事業
25	学校図書館・公共図書館相互貸借事業
26	視聴覚資料利用促進事業
27	読み聞かせ促進事業
28	地域文庫・読書ボランティア支援事業
29	レファレンスサービス事業
30	文化財公開・活用事業（船原古墳韓国交流事業）
31	国史跡船原古墳調査整備事業
32	文化財調査指定事業
33	民間受託事業等発掘調査事業
34	読書推進事業
35	リーパスカレッジ
36	乳幼児親子居場所提供事業
37	乳幼児親子相談事業（1歳誕生広場・2歳元気っこ広場）
38	乳幼児絵本との出会い促進事業
39	介護予防・生きがいづくり支援事業（しゃんしゃん）
40	地域介護予防音楽活動支援
41	地域活動支援センター（ゆい）管理運営事業

【行政の事業報告】文化芸術関連事業の報告にあたって

「行政の活動目標」

① 市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供 人々の心を豊かにし、創造性や感性を刺激するため、すべての人が文化芸術に触れられる場や機会を提供します。
② 市民が個性や感性を発揮できる場の提供 多様な個性や感性を引き出し、成長と自己実現を促す機会や場を提供し、積極的に活用します。
③ 社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進 人々をつなぐコミュニケーションツール、もしくは、場とするため、市民が文化芸術活動に参加しやすい環境を整備し、多世代・多文化の人々との交流を促進します。
④ 想定外の災害時でも持続可能な文化芸術活動の促進 想定外の災害時においても、継続的な文化芸術事業の実施に努めます。また、市民の活動においても、災害による中断を抑え、持続可能な活動を促します。
⑤ 古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘 古賀市の誇れる「たから」を未来へ伝えていくことに努め、また、市民が「たから」への理解を深め、その魅力を発見できるように促します。
⑥ 古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成 古賀の「たから」の魅力を継続的に伝えていくための担い手となる人材の育成に努めます。

古賀の「たから」

市民が文化芸術に触れる機会(場)や文化芸術活動を促進する環境、文化芸術(美術・音楽・演劇・伝統芸能等)、文化財、自然景観、まち並み、また、それらに関わる人を指します。

「評価」

【事業】に係る評価を下記の評価基準により表示しています。

4	効果が上がっている／貢献している
3	概ね効果が上がっている／概ね貢献している
2	あまり効果が上がっていない／あまり貢献していない
1	改善の必要がある

「今後の方向性」

【事業】に係る方向性を下記の基準により表示しています。

拡充
維持
見直し
廃止、終了

「文化芸術」の範囲※文化芸術基本法より

芸術	文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊その他の芸術(メディア芸術を除く)
メディア芸術	映画、漫画、アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術
伝統芸能	雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊その他の我が国古来の伝統的な芸能
芸能	講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱その他の芸能(伝統芸能を除く)
生活文化	茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化
国民娯楽	囲碁、将棋その他の国民的娯楽
出版物及びレコード	
文化財	有形及び無形の文化財並びにその保存技術
地域における文化芸術	地域固有の伝統芸能及び民俗芸能(地域の人々によって行われる民俗的な芸能)

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	文化芸術振興計画管理	担当課	文化課
-----	------------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☐
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☐
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価		今後の方向性	
----	--	--------	--

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☐ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☐ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	-
参加者数	- (うち、新規参加者数は 人) ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	・古賀市の文化行政に係る事案について古賀市文化芸術審議会に諮問し、答申を受ける。 ・答申を受けて作成した第2期古賀市文化芸術振興計画について、周知をはかる。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】
課題	

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	芸術文化の祭典事業	担当課	文化課
-----	-----------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☒
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☒
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☒
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	3	概ね効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-------------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☒ 芸術 ☐ メディア芸術 ☒ 伝統芸能 ☒ 芸能 ☐ 生活文化 ☒ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☐ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☒ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	美術展：10月31日～11月4日 舞台芸能：11月2日～11月4日
参加者数	来場者数 (うち、新規参加者数は 人) 美術展：556人 舞台芸能：2,409人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	古賀市で活動する文化芸術活動団体の発表会として、美術展を5日間、舞台芸能披露を3日間実施。 美術展：一般125点、文化力向上事業372+101=473点 舞台芸能：44団体が出演
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・美術展では、文化力向上事業等で制作した子どもたちの作品展示が好評で、そのために会場を訪れる家族も多くおり、その方々が他の文化作品に新たに触れる機会になったと考える。 ・舞台芸能では、「Blast!」トランペット奏者の洪田華暖さんをゲストとして招き、出身の団体とともに演奏していただき、会場を盛り上げていただいた。
課題	・美術展では、出展者の作品の技術向上、続けていくことの素晴らしさ、大切さ等を感じていただけた美術展になっているが、年により出品数にばらつきがある。 ・舞台芸能では、プログラムにより入場者の増減の差が大きいことから、編成等に課題がある。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	3
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	3
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	3
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	3
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	3
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	童謡まつり	担当課	文化課
-----	-------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☒
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☒
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☒
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。
☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業	
☐ 中止	

3 事業の評価

評価	3	概ね効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-------------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☒ 芸術 ☐ メディア芸術 ☒ 伝統芸能 ☒ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☐ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☒ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	令和7年2月23日(日)
参加者数	来場者数 2,592 (うち、新規参加者数は 人) ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	公募により、エントリーした各団体(27団体)が童謡の演奏・歌を披露する他独唱コンクールを実施。 なお、当日のステージのバックボードは古賀竟成館高等学校の美術部が作成。 独唱コンクールにおいては、表彰式を実施。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・スクリーンに古賀竟成館高等学校美術部の紹介があり、バックボード作成のPRにもなり、好評であった。 ・幅広い年齢層の出演であることに加え、独唱・合唱・楽器演奏・日本舞踊・バレエ・演劇等多種にわたる演目に、多くの来場者が満足いただけた様子である。
課題	・独唱コンクールの出場者が少なく、今後の開催に向けて、課題が残る。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	3
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	3
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	3
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	3
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	3
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	サロンコンサート	担当課	文化課
-----	----------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☒
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☒
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☒
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。
☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業	
☐ 中止	

3 事業の評価

評価	3	概ね効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-------------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☒ 芸術 ☐ 国民娯楽	☒ メディア芸術 ☒ 出版物及びレコード	☒ 伝統芸能 ☐ 文化財	☒ 芸能 ☐ 地域における文化芸術	☐ 生活文化
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☒ 全年齢	☐ 学生(小中高大) ☐ その他 ()	☐ 子育て世代	☐ シニア世代	
実施時期	5月～3月までの第3土曜日、10回実施				
参加者数	出演団体：380 (うち、新規参加者数は)人 来場者数：673 人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。				
内容	生の演奏を気軽に、定期的に、身近で発表・鑑賞する機会を提供するため、カフェで聞くように、リラックスしながら聴け、参加者同士が交流できるコンサートを実施する。				
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 一般的な楽器演奏や歌唱だけではなく、バレエ、日舞などの演技の他、紙芝居、映像と箏のコラボレーションといった企画を実施し、多様な文化芸術を提供する機会となった。				
課題	・リーパスプラザこがだけではなく、地域の公民館等での実施をしているが、駐車場不足などの課題がある。 ・入場者のうち若年層が少ないため、PR活動が必要。				

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	3
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	3
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	3
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	3
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	3
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☒
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☐
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

評価	3	概ね効果が上がっている	今後の 方向性	維持
----	---	-------------	------------	----

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☒ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☐ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☒ 全年齢 ☐ その他（ ）
実施時期	4月～翌3月
参加者数	- (うち、新規参加者数は)人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	近隣で開催された美術展で受賞した古賀市民の作品を展示。市民や職員が頻繁に行き交う空間に展示することで、古賀市が誇る文化芸術作品の発表の場となると共に、市民がよりクオリティの高い作品を身近に鑑賞できる機会の提供にもなっている。基本的に1ヶ月ごとに作品を入れ替える。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・前年度または今年度にすばらしい成績を残された方の作品を1ヶ月ごとに展示することで、来場する人に飽くことなく優秀な作品を鑑賞してもらえた。 ・昨年度より引き続きSNSで周知も図り、作品を見る目的で、市役所を訪れる人もいた。
課題	・上記の美術展以外の受賞作品も展示対象に入れるべきか等検討する。

事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。		評価
①	市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	3
②	市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③	市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④	新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	3
⑤	市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	
⑥	市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	古賀駅美術館事業	担当課	文化課
-----	----------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☒
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☒
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☐
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	3	概ね効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-------------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☒ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☐ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☒ 全年齢 ☐ 学生(小中高大) ☐ その他 () ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代
実施時期	4月～翌3月
参加者数	- (うち、新規参加者数は 人) ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	古賀市の玄関口である古賀駅階段に設置している掲示板に月替わりで市民の作品を展示することで、潤いある空間を創出するとともに、駅を利用する市内外の方々に古賀市の文化をアピールする。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・古賀市民の作品を1ヶ月ごとに展示することで、古賀駅利用者にひろく作品を鑑賞してもらえた。
課題	・掲示板の劣化により、作品展示の美観を損ねている。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	3
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	3
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	3
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	アート・バス事業	担当課	文化課
-----	----------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☒
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☐
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☒

2 実施の有無

☒ 実施	} ()	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。
☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業		
☐ 中止		

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-----------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☒ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☐ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☒ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☒ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	1月18日①②、19日③
参加者数	①17、②6、③15 (うち、新規参加者数は)人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	古賀市内には美術館がないため、古賀市内の就学前児童及び小中学生(参加希望者)をバスに乗せて、近隣の美術館に連れて行き、本物の芸術に触れる機会を創出する。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・福岡県立美術館の学芸員より、美術鑑賞時のポイントや企画展の内容についてお話を聞くことで鑑賞への導入となっており、その後の鑑賞やグループトーク時により「観る」について深まっている様子だった。 ・本物の美術品をみる、知るを通して、文化芸術への関心向上につながった。
課題	・鑑賞により興味を持った参加者へ、グループトークだけではなくアウトプットへのアプローチができないか検討する。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	3
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	3
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	2

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	文化力向上事業 「抽象画を描いてみよう」	担当課	文化課
-----	-------------------------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☒
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☒
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☒

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	3	概ね効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-------------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☒ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☐ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☒ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☐ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	観賞・制作 6～9月 展示 11月、1～5月
参加者数	402 (うち、新規参加者数は 402 人) ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	子どもたちの文化芸術への関心向上をねらいとする。 小中学校の授業や部活動の時間にて、市が誇る画家・赤星夫妻の絵を出張展示し、子どもたちが地元作家を知るとともに優れた芸術作品に触れる機会を創出。併せて市内在住のアーティストをゲストティーチャーとして派遣し、学校の授業では学べない技術的な指導を受けながら、絵画を描く。作成した作品は、市の事業や施設の中で発表の場を設ける。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・寄贈作品の有効活用及び赤星夫妻についての周知 ・子どもたちが「本物の絵」に触れる機会の創出 ・絵の鑑賞を介した意見交換を通じての多様性の受容 ・絵を描くことに対する楽しさの実感 ・自らの絵が展示されることによる自己肯定感の向上
課題	・ゲストティーチャーの負担軽減 ・作品運搬等のための人的確保

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	3
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	3
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	3
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	4

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	文化力向上事業 「船原古墳の宝を知ろう」	担当課	文化課
-----	-------------------------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☒
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☒
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☒

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	3	概ね効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-------------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☒ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☒ 文化財 ☒ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☒ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☐ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	体験・制作 6月・10月 展示 8月・11月
参加者数	182 (うち、新規参加者数は 182 人) ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	小中学校の社会科や総合の時間にて、国史跡「船原古墳」とそこから出土した遺物を知る授業を実施。また、授業の内容を深めるため九州歴史資料館と協力し、資料館が所有する船原古墳を題材としたVR教材も活用。併せて、出土遺物の形を覚えるワークショップも実施する。作成した作品は、市の事業や施設の中で発表の場を設ける。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・船原古墳を題材として、子どもたち向けの授業として取り組んだもの ・ともに船原古墳を研究する九州歴史資料館との協力体制による授業の実施 ・小中学生時からの「船原古墳」の認知度を高めること
課題	・授業のための事前準備 ・船原古墳について小中学生向けに説明できる人材の確保

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	3
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	3
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	3
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	4

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	コレクション展事業	担当課	文化課
-----	-----------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☒
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☒

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-----------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☒ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☐ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☐ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	第Ⅰ期：令和6年6月29日～7月15日 第Ⅱ期：令和7年1月25日～2月24日
参加者数	第Ⅰ期：929 (うち、新規参加者数は)人 第Ⅱ期：903 人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	古賀市のアーティストのコレクションを展示し、市民が芸術作品に観て、楽しむ場の提供をする。第Ⅰ期では、令和6年4月に新規に寄贈された作品を含め「水」にかかわる作品を披露する。第Ⅱ期では、古賀を代表する画家夫妻、赤星孝氏と赤星信子氏の作品を披露することで、両氏とその作品の素晴らしさをひろく知ってもらうきっかけとした。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 第Ⅰ期、第Ⅱ期に分けて、特集する作品の内容を変えたことにより、幅広い年代に観覧いただいた。引き続き、幅広い世代に気軽に芸術作品に触れていただける機会をつくっていくべきと考える。
課題	学芸員など専門職員がいないので、作品の説明などは困難である。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	3
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	4
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	3

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	自然史・歴史講座	担当課	文化課
-----	----------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☒

2 実施の有無

☒ 実施	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。
☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業	
☐ 中止	

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-----------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☒ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☒ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☒ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	講演会：8月10日 現地学習：11月23日、令和7年3月12日
参加者数	104 (うち、新規参加者数は)人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	市民の郷土意識を高め、ふるさとを愛する心を醸成することを目的とする。 企画展開催時期にあわせて関連講演会を実施することで、市民の郷土の歴史への理解度を深めた。 11月の現地学習では、生涯学習推進課と協働で市民ウォーキングで実施。3月の現地学習では、市民ボランティアを活用。いずれも企画展に絡めた内容で行った。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・本事業を通して、市民が身近な文化財に触れるきっかけを提供できた。 ・歴史、文化財等の継承を目的とした人材育成を、市民ボランティアの活用を通じて実施。今後も継続予定。
課題	・「講演会の録画視聴がしたい」との意見があった。記録保存等のためにも、今度導入を検討する。 ・自然史や歴史、文化財等の伝承活動推進のため、今後も周知や人材育成を行う。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	4
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	4

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	子ども歴史講座	担当課	文化課
-----	---------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☒

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-----------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☒ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☒ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☒ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☐ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	現地学習：4月27日 体験活動：7月26日、27日、9月14日、11月10日
参加者数	70 (うち、新規参加者数は)人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	現地学習や体験学習を通して、船原古墳や郷土の歴史に興味をもってもらうことを目的とする。歴史の講義と体験活動を実施。市内の史跡をめぐる現地学習や、勾玉・杏葉、縄文土器、古代食づくりを行った。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・学校の授業とは異なる方法で郷土の歴史を学べる場を提供できた。
課題	・今後も、市公式ラインやSNS等を使った周知を行うことで、参加者を募るとともに歴史資料館の認知度向上を図る。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	4
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	4

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	企画展	担当課	文化課
-----	-----	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☒

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-----------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☒ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☒ 出版物及びレコード ☒ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☒ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	7月20日～9月1日
参加者数	1359 (うち、新規参加者数は)人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	市民の郷土意識を高め、ふるさとを愛する心を醸成することを目的とする。 身近にある祈りの対象について、「庚申塔」「お堂」「小祠など」の3テーマに分けて紹介をした。実物の展示が難しいため、写真パネルを作成して展示を行った。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・本事業を通して、市民が身近な文化財に触れるきっかけを提供できた。 ・文化財が身近にあること、またそれらを大切にしている人々がいることを市民に再認識してもらうことで、郷土への愛着や誇りの醸成につなげた。
課題	・周知が遅い。1か月前には周知できるように、早めに内容を固めてスケジュールを調整する。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	4
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	4

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	特集展示	担当課	文化課
-----	------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☒

2 実施の有無

☒ 実施	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。
☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業	
☐ 中止	

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	見直し
----	---	-----------	--------	-----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☒ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☒ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☒ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	戦争の展示：12月1日～15日（読み聞かせ・ギャラリートーク：12月15日） 古賀に縁のある戦国武将の展示：3月1日～16日
参加者数	1476 (うち、新規参加者数は)人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	市民の郷土意識を高め、ふるさとを愛する心を醸成することを目的とする。戦争の展示では、戦争をしないために自分のできることを考えるきっかけを提供する（R2から継続）。古賀に縁のある戦国武将の展示では、薦野増時と米多比鎮久を知っていただく機会を提供する（R3から継続）。戦争の展示では、寄贈資料の展示や聞き取り内容の紹介をした。戦国武将の展示では、立花宗茂の実父・高橋紹運を取り上げ、解説や写真、地図などで紹介をした。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・読み聞かせでは小学生以下の子どもたちに戦争と平和を知る機会、ギャラリートークではラジオゾンデの調査を体験された方のお話を通じて、戦争について学ぶ機会を提供できた。 ・古賀に縁のある戦国武将の展示では、来場者内訳が市内53%、市外47%となっており、市内外に古賀の歴史を伝えられた。
課題	・古賀に縁のある戦国武将の展示について、戦国時代に関心がある広範囲の人々に訪れていただいたことで、事業のねらい以上のことを求められるようになった。資料の借用、監修者の招請など、事業規模を拡大させる必要があり、歴史資料館単独での実施は難しいと考えられるため、開催を見合わせる。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	4
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	4

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	船原古墳パネル展	担当課	文化課
-----	----------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☒

2 実施の有無

☒ 実施	} ()	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。
☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業		
☐ 中止		

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-----------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☒ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☒ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	歴史資料館ギャラリー：5月18日～6月9日 アクロス福岡：令和7年1月13日～19日
参加者数	612 (うち、新規参加者数は)人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	船原古墳の認知度向上を目的とする。 船原古墳や船原古墳の出土品について、写真やイラスト、動画、文章などで市民にわかりやすく紹介をしている。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・新たなパネルを追加した。船原古墳から見つかった6頭分の馬具の組み合わせ「馬装」のイラストパネルを作成、展示した。今後も調査・研究で分かったことを市民にわかりやすく発信する。 ・船原古墳に関する講座にあわせてパネル展を実施。講座終了後に観覧する方が多く見られた。関連事業とあわせて開催することで、さらなる認知度向上を図る。
課題	・アンケートの回答率が低い。自由に観覧できるよう、順路を決めていないことが原因のひとつにあると考える。事業の効果や、企画参考のため、回答率をあげる工夫を検討する。いただいた意見を参考に、事業の改善に努める。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	4
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	4

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	れきし体験パスポート	担当課	文化課
-----	------------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☒

2 実施の有無

☒ 実施	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。
☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業	
☐ 中止	

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-----------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☒ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☒ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☒ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☐ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	小中学校の長期休業期間を含む期間
参加者数	481 (うち、新規参加者数は)人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	歴史資料館に親しんでもらい、体験学習を通して郷土の歴史を学んでもらうことを目的とする。展示物に関するクイズや昔のあそび、石器に触るなどの体験を実施。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・就学前から中学生までの幅広い層の子どもたちが利用し、歴史資料館の展示物に関するクイズや昔あそび体験を通して、郷土の歴史を学んでもらうことができた。今後も利用促進を図る。
課題	・本事業を通して学んだことから歴史への興味・関心を広げてもらえるよう、クイズの解説シートを作成を検討する。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	3
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	4

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	出張歴史資料館	担当課	文化課
-----	---------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☒
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☒

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	3	概ね効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-------------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☒ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☒ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☒ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	11月24日
参加者数	397 (うち、新規参加者数は 人) ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	体験活動を通して、歴史に興味をもってもらうことを目的とする。 青少年育成課主催事業「古賀市子どもわくわくフェスタ」に出店。けん玉やわなげ、紙相撲などの「むかしのあそび」をテーマにした体験活動の場を設けた。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・幅広い世代で遊べることから、世代間交流が見受けられた。 ・歴史資料館中会議室で実施したため、歴史資料館に来館する人が多く見られた。当館の認知度向上にもつながるため、次回も同じ会場を希望する。
課題	・「むかしのあそび」のほか、子どもが楽しく学べる体験を検討する。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	3
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	3
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	3

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	図書館・歴史資料館開館 30周年記念事業	担当課	文化課
-----	-------------------------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☒

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	廃止、終了
----	---	-----------	--------	-------

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☒ 芸術 ☐ 国民娯楽 ☒ メディア芸術 ☐ 出版物及びレコード ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☒ 文化財 ☐ 生活文化 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☒ 全年齢 ☐ 学生(小中高大) ☐ その他 () ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代
実施時期	9月29日～10月20日
参加者数	1382 (うち、新規参加者数は)人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	図書館の移転開館・歴史資料館の開館30年を迎える令和6年度に、利用者への感謝の気持ちを込めて開催する。これまでの30年を振り返る「パネル展」、館内のキーワードを見つけて並び替える「キーワードラリー」、メッセージを募集して貼り出す「メッセージボード」、両館のキャラクターを用いた「顔はめパネル」を実施。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・来場者の様子やアンケート結果から、本事業の趣旨が伝わったことがうかがえ、事業の目的は達成できた。
課題	・職員側からの発信のみであり、今後の方向性や在り方について詰められておらず、その部分のメッセージ性が足りなかった。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	4
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	4

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	井上泰幸のセカイ展	担当課	文化課
-----	-----------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☒

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	廃止、終了
----	---	-----------	--------	-------

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ 国民娯楽 ☒ メディア芸術 ☐ 出版物及びレコード ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☒ 文化財 ☐ 地域における文化芸術 ☐ 生活文化
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☒ 全年齢 ☐ 学生(小中高大) ☐ その他 () ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代
実施時期	展示：9月7日～10月6日 上映&トークショー：9月21日、22日
参加者数	4740 (うち、新規参加者数は 人) ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	古賀出身の井上泰幸氏は、特撮美術の第一人者でありながら、地元ではあまり知られていないという一面があるため、広く市内外の方々に知っていただくことを目的とする。 岩田屋のミニチュアの展示、解説パネル、グッズ販売、上映&トークショーなどを実施。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・特撮映画に関心のある方々が全国から訪れ、熱心に観覧している様子が見受けられた。アンケートでも、井上泰幸氏についての感想が多く、本事業の目的を達成できたことが分かる。
課題	・古賀の偉人として今後も周知に努める。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	4
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	4

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	団体見学・出前授業	担当課	文化課
-----	-----------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☒

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-----------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☒ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☒ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☒ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	通年
参加者数	市内小中学校：503 (うち、新規参加者数は)人 市外小学校：78 一般：109 人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	子どもたちの教育普及や一般向けの生涯学習の一環として、学校及び一般団体からの施設見学を受け入れている。歴史資料館長による出前授業も実施している。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・学校の教科学習見学では、学習のねらいやスケジュール等について、学校と事前に打ち合わせをして進めている。机上で学ぶより、実物を見ながら歴史資料館職員の説明を受けることで、日頃とは違う学びが提供できている。 ・古賀市の宝である国史跡船原古墳について、市内外の方により深く知ってもらえるように解説等を行っている。
課題	・歴史資料館の活用促進のため、九州歴史資料館が実施している「オンライン遠隔授業」の導入を検討する。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	4
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	4

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	図書館まつり事業	担当課	文化課
-----	----------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☐
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。
☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業	
☐ 中止	

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-----------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術	☒ メディア芸術	☐ 伝統芸能	☐ 芸能	☐ 生活文化
	☐ 国民娯楽	☒ 出版物及びレコード	☐ 文化財	☐ 地域における文化芸術	
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前)	☐ 学生(小中高大)	☐ 子育て世代	☐ シニア世代	
	☒ 全年齢	☐ その他 ()			
実施時期	令和6年9月28日(土)～10月6日(日)				
参加者数	下記のとおりのうち、新規参加者数は () 人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。				
内容	【図書館まつり(図書館Week2024)】 ・図書館で学ぶがんシリーズ(第5回)「すい臓がんを知る」(50人) ・映画会「RRR」(第95回アカデミー賞歌曲賞受賞 インド映画)(98人) ・人形劇「はらぺこあおむし、ソメ子とオニ ほか」(84人) ・ワークショップ「ドラえもんマスコットづくり」(19人) ・ブックリサイクル(1,162冊) ・雑誌付録プレゼント抽選(応募219人/当選30人) ・オリジナル三角しおりプレゼント(980個)				
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・今年度は「図書館Week2024」と「図書館・歴史資料館開館30周年記念イベント」を実施。イベント参加者・来館者が増加した。参加者は上記のとおりの。				
課題	・著名な作家による講演会は市民の要望も多く、読書への関心を高めるきっかけにつながることを期待されるが、講師料が高額なこともあり開催が難しい状況である。				

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	読書活動促進事業	担当課	文化課
-----	----------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☐
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-----------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ 国民娯楽 ☒ メディア芸術 ☒ 出版物及びレコード ☐ 伝統芸能 ☐ 文化財 ☐ 芸能 ☐ 地域における文化芸術 ☐ 生活文化
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☒ 全年齢 ☐ 学生(小中高大) ☐ その他 () ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代
実施時期	下記のとおり
参加者数	下記のとおり (うち、新規参加者数は 人) 人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	体験学習を交えた広がりのある読書イベントを開催し、読書の楽しさを広げ、読書活動の推進を図った。 ・「子ども読書の日イベント」4月20日・4月21日 各イベント合計延べ284人 ・「暮らしの講座」6月16日、30人参加 ・布の絵本づくり講座/2月7日・2月14日・2月21日、全3回15人参加
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 参加者は上記のとおり
課題	・参加者が少ない事業の他に、継続して行っている講座についても見直しを行い、新たな市民のニーズや地域の課題に対応した情報提供等ができるように計画していく必要がある。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	セカンドブック事業	担当課	文化課
-----	-----------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☐
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-----------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☒ 出版物及びレコード ☐ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☒ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☐ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	毎月3歳児健診実施時
参加者数	引換券送付人数：501人 配布人数：472人（引換率 94%） （うち、新規参加者数は 人） ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	【セカンドブック配布事業】 ・3歳の誕生日を迎える子どもと保護者に絵本の引換券を送付し、サンコスモ古賀で開催する「3歳児健診」終了後に1冊プレゼントする。 ・更に、読書のきっかけづくりや読書の習慣をつけてもらうため、「セカンドブックのしおり」を一緒に配布し、本を通じて親子での豊かな時間がもてるように役立てていただくようにした。参加者は上記のとおり
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・配布率は例年90%超で、子ども読書活動推進計画策定時に実施したアンケート調査では、「ブックスタートやセカンドブックで贈った本を普段の読み聞かせに活用している家庭」は、6割弱となっている。 ・同封している「3歳向けおすすめの本のリスト」は、保護者の関心も高く、また、配布の際に図書館への来館を案内することで、家庭における読書のきっかけづくりになっている。 ・更なる来館を促すきっかけづくりのため、「図書館ノベルティグッズ(図書館ボランティア作成による手芸作品)」の引換券配布を行った。
課題	・絵本の配布で終わらせず、継続的な読書習慣への働きかけが必要である。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたいと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	学校図書館・公共図書館 相互貸借事業	担当課	文化課
-----	-----------------------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☐
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-----------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ 国民娯楽 ☒ メディア芸術 ☒ 出版物及びレコード ☐ 伝統芸能 ☐ 文化財 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☒ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☒ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	通年
参加者数	下記のとおりのうち、新規参加者数は () 人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	・公共図書館ネットワークを活用により横断検索で資料の検索を行い、公共図書館間相互に貸借を実施。 ・利用者からのリクエストのうち、自館に所蔵がない資料について、他館にその利用を申込み、利用者に提供する。 ・市立図書館から各学校への貸出冊数：437冊（年間） ・学校図書館の市民開放用一般図書の配本を実施(7校/11校で実施)：941冊（年間） ・国・県・市の公共図書館ネットワークを活用し、相互貸借を実施：2,265件（年間）
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・市立図書館に所蔵のない資料を他公共図書館等と貸し借りすることで、限られた予算の中で図書資料の有効活用ができた。 ・情報化社会に対応したインターネットによる相互貸借を活用することで、利用者の利便性向上を図ることができた。参加者は上記のとおり
課題	・資料の貸出、借受の冊数が増加傾向にあるため、相互貸借に伴う事務手続きの簡略化等について検討が必要である。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	視聴覚資料利用促進事業	担当課	文化課
-----	-------------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☐
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-----------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ 国民娯楽 ☒ メディア芸術 ☒ 出版物及びレコード ☐ 伝統芸能 ☐ 文化財 ☐ 芸能 ☐ 地域における文化芸術 ☐ 生活文化
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☒ 全年齢 ☐ 学生(小中高大) ☐ その他 () ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代
実施時期	下記のとおり
参加者数	映画会：227人 (うち、新規参加者数は 人) 子ども映画会：227人 人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	・図書館が所蔵している視聴覚資料(上映許諾権付)を「映画会」「子ども映画会」として上映。上映にあたっては、参加者のニーズと上映権の許諾を考慮して作品や文化的価値がある作品、評価が定まった作品を選んだ。 ・映画会 「RRR」9/29 (98人) 「流浪の月」11/9 (86人) 「マダムインニューヨーク」2/19 (30人) 「かがみの孤城」8/25 (13人) ・子ども映画会 「おしりたんてい」7/31 (68人) 「げんきげんきノンタン」8/7 (41人) 「おしりたんてい」3/20 (118人)
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 映画会については、幅広い年代が参加。また2月には、人権センターとコラボで「男女共同参画関連作品」を上映し、参加者の幅が広がった。 参加者は上記のとおり
課題	上映作品の選考や周知の方法等について検討したい。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	読み聞かせ促進事業	担当課	文化課
-----	-----------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☒
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☐
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-----------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☒ 出版物及びレコード ☐ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☒ 幼少期(就学前) ☒ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☐ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	下記のとおり
参加者数	下記のとおり (うち、新規参加者数は 人) 人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	読書ボランティアの協力も受け、絵本の読み聞かせを中心に紙芝居、手遊び等を交えながら、おはなし会を実施。 ・「どうようおはなし会(毎週)」年49回、981人 ・「赤ちゃんおはなし会(第2水曜日)」年12回、234人 ・「小さい子のおはなし会(第3水曜日)」年12回、120人 ・「高校生によるおはなし会(古賀竟成館高校/7月28日)」26人 ・「高校生によるおはなし会(玄界高校/12月25日)」59人
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 参加者は上記のとおり
課題	・赤ちゃんおはなし会や小さい子のおはなし会は増加傾向にあるが、おはなし会への参加で終わることなく、継続的な読書習慣への働きかけが必要である。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	3
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	地域文庫・読書ボランティア支援事業	担当課	文化課
-----	-------------------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☒
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☐
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-----------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☒ 出版物及びレコード ☐ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☐ 全年齢 ☒ その他 ()
実施時期	—
参加者数	下記のとおり (うち、新規参加者数は 人) 人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	【地域文庫・読書ボランティア団体への団体貸出】 各地域での読書活動を促進するため、1か月間に100冊/まで利用できる団体貸出しを行った。(年間貸出総冊数2,717冊) 【読書ボランティア団体への支援】 地域ボランティア活動支援助成事業等の案内や各地域での研修会や講演会等の情報提供を行った。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・文庫の自主的な活動を促し、図書館を利用することが難しい利用者への読書活動を市内各地域へ広げることができた。
課題	・地域文庫については、本の貸出数や利用者の減少、運営側の担い手不足が生じている。 また、読書ボランティア団体についても、一部では会員の減少が見られるため、今後も活動が継続して行われるよう連携を図る必要がある。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	4
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	レファレンスサービス事業	担当課	文化課
-----	--------------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☐
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-----------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☒ 出版物及びレコード ☐ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☒ 全年齢 ☐ 学生(小中高大) ☐ その他 () ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代
実施時期	通年
参加者数	下記のとおり (うち、新規参加者数は 人) 人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	・利用者の多種多様なニーズに応じて、資料及び情報提供を行った。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 レファレンス：9,907件(口頭でのレファレンス:3,974件+他館との所蔵調査:5,933件)
課題	・多くの方に活用していただき、地域の課題解決などにつながる手段としても活用してもらうよう周知・PRする必要がある。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	文化財公開・活用事業 (船原古墳韓国交流事業)	担当課	文化課
-----	----------------------------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☒

2 実施の有無

☒ 実施	} ()	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。
☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業		
☐ 中止		

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	見直し
----	---	-----------	--------	-----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☒ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☒ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	・交流事業の予習講座 7月28日 ・交流事業復元品展示会 8月27日 ・交流事業を受けて特別解説会 10月27日
参加者数	合計 150 人 (うち、新規参加者数は 人) ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	国史跡船原古墳遺物と関連が考えられる韓国慶州より研究者を招き、韓国の玉虫装飾馬具の復元品展示と解説会を行った。また前後にも予習講座と市職員による特別解説会を行った。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 8月の復元品展示会は半日だけの開催だったが、韓国総領事館関係者を含め123人の参加があった。参加者は韓国の研究者に多くの質問をしている様子から、船原古墳への関心の高さがうかがえた。
課題	急遽の開催事業だったため予算が無く、また韓国語対応が必要だったため、担当者が限定され十分な配慮ができなかったが、創意工夫で乗り越えられた。十分な準備時間を設けて、多くの方に参加してもらえるよう周知・PRする必要がある。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	4
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	4

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	国史跡船原古墳調査整備事業	担当課	文化課
-----	---------------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☐
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-----------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☒ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☒ シニア世代 ☐ 全年齢 ☒ その他 ()
実施時期	通年
参加者数	見学者対応約200人 (うち、新規参加者数は 人) ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	・船原古墳出土品の土やサビ等を取り除くクリーニング作業 ・船原古墳出土品の実測や写真撮影などの記録化作業 ・船原古墳出土品遺物付着の有機質の調査 ・見学者対応(歴史資料館・現地での説明・講演会)
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・船原古墳出土品のクリーニング作業、記録化作業、有機質調査は、当初の予定通り完了することができた。 ・見学者(歴史資料館・現地での説明)の質問より、多くの関心が集まっていることを実感した。
課題	・引き続き計画的に調査・研究を行い、重要文化財指定への準備を進める。 ・現地の整備、そして活用などについて今後検討する必要がある。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	4
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたとと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	文化財調査指定事業	担当課	文化課
-----	-----------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☐
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。	}	()
☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業			
☐ 中止			

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-----------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☒ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☐ 全年齢 ☒ その他 ()
実施時期	令和7年3月14日
参加者数	保護審議会委員 5 人 (うち、新規参加者数は 人) ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	・市内に点在する文化財を古賀市指定文化財にするための調査審議(現在審議中「青柳村役場兵事文書」)を行った。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・審議中の「青柳村役場兵事文書」について、諮問を行った。
課題	・通常年2回審議会を開催していたが、準備等が整わず令和6年度は1回のみ開催となった。指定した文化財について周知・PRする必要がある。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	4
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	民間受託事業等発掘調査事業	担当課	文化課
-----	---------------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☐
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-----------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☒ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☐ 全年齢 ☒ その他 ()
実施時期	通年
参加者数	(うち、新規参加者数は 人) 0 人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	・各種開発に伴う埋蔵文化財取扱いに関する事前協議など ・埋蔵文化財の確認・試掘調査の実施と成果の報告 ・本発掘調査の実施と出土品の整理作業など
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・各種開発に伴う事前協議、確認・試掘調査は適切に実施できた。 ・埋蔵文化財記録保存のための発掘調査6件実施(薦野大井手遺跡、青柳大内田遺跡、新原大田町遺跡、糸江・岸田遺跡、薦野清滝地区基盤整備、新原高木地区遺跡)
課題	・市内での大規模開発が続き、船原古墳以外の文化財等の周知化は十分にできていない状況で、船原古墳と関係性を持たせて保全などを進め、周知化を行う必要がある。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	4
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	読書推進事業	担当課	学校教育課
-----	--------	-----	-------

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☐
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	3	概ね効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-------------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☒ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☐ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☒ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☐ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	通年
参加者数	(うち、新規参加者数は)人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	学校図書館での読書週間・月間、図書委員会活動、読み聞かせボランティア活動、朝読書、うち読、市民開放等の実施
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・図書の時間に本の調べ方の学習等を行うことにより、読書指導の充実を図った。 ・朝読書を取り入れ、読書力がついた。 ・読書週間の設定や図書委員会によるしおりコンテストやビブリオバトル等の取組、ブックトラム(学校図書巡回車)、読書量の視覚化、保護者や地域の方の読書ボランティアによる読み聞かせ、「学校司書の押し本」としてヤングアダルトの本の選書紹介冊子の更新等の取組で、読書に関心を持つことにつながった。
課題	・学校図書館を利用が少ない児童生徒への働きかけ ・児童生徒の読書離れ

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	3
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	リーパスカレッジ	担当課	生涯学習推進課
-----	----------	-----	---------

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☒
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☒
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☒
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☒
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☒

2 実施の有無

☒ 実施	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。	}	()
☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業			
☐ 中止			

3 事業の評価

評価	4	効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-----------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☒ 芸術 ☐ メディア芸術 ☒ 伝統芸能 ☒ 芸能 ☒ 生活文化 ☒ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☒ 文化財 ☒ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☒ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	通年
参加者数	1157 (うち、新規参加者数は)人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	「市民が主体となって学びあい、教えあい、高めあうことにより、心豊かに学び続ける人が育ちまちづくり、仲間づくりに貢献すること」を目的に市民講座を開催している。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 年間62講座の実施(園芸、手芸、歴史、デザイン・工作等) ・園芸講座 ・市内史跡現地見学 ・郷土戦国武将講座 ・革細工 ・洋服着物リメイク ・日本の橋講座 ・楽器演奏 ・書道等を学習・体験できた。 講師や受講生間でつながり、また地域の出前講座にひろがる講座もあった。
課題	・地域課題解決型など、より良い事業への見直しや磨きをかける必要がある。 ・市民講座の受講後、学習意欲の継続や活躍の場の情報提供を、関係団体等と連携しながら、さらに進めていく必要がある。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	4
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	4
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	4
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	3
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	4
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	3

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	乳幼児親子居場所提供事業	担当課	子ども家庭センター
-----	--------------	-----	-----------

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☐
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☒
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☐
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施	} ()	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。
☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業		
☐ 中止		

3 事業の評価

評価	3	概ね効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-------------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☐ 文化財 ☒ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☒ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☒ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☐ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	月曜日～金曜日
参加者数	4,167 (うち、新規参加者数は 312 人) ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	・親同士の交流の場の提供 ・子育て支援情報として、でんでんむしだよりや地域の子育て支援事業などの情報の提供 ・夏休み等の長期休暇中に主に就学前の子どもを対象とした遊びの場の提供 (わんぱくタイム)
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・乳幼児と保護者の居場所を確保することで、親同士の交友を促進するとともに、適切な情報を提供することができた。 ・月齢児に応じた遊びのスペースを設けることで、子どもが主体的に遊べるように工夫した。 ・課内で連携し、気になる親子を見守り、つなぐ役割を果たしている。
課題	・親の育児力の向上を図るような取組を今後も提供していく必要がある。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	3
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	乳幼児親子相談事業 (1歳誕生広場・2歳元気っこ広場)	担当課	子ども家庭センター
-----	--------------------------------	-----	-----------

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☒
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☐
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	3	概ね効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-------------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☐ 文化財 ☒ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☒ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☐ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	毎月1回(1歳誕生広場)、年6回(2歳元気っこ広場)
参加者数	(1歳誕生広場) 79 (うち、新規参加者数は)人 (2歳元気っこ広場) 97 人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	・わらべうた、手あそび、読み聞かせ等の親子遊び ・月齢に応じた生活リズム習得の啓発 ・誕生会(1歳誕生広場) ・育児相談
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・個別相談の実施。市の様々な相談窓口や年齢に応じた事業の紹介をし、適切な支援へとつなげている。
課題	・今後も育児の孤立感や不安感を防ぐため、関係機関との連携を強化しながら、適切な支援や親子の見守りを継続する必要がある。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	3
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	3
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたとと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	乳幼児絵本との出会い促進事業	担当課	子ども家庭センター
-----	----------------	-----	-----------

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☐
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☐
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	3	概ね効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-------------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☒ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☐ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☒ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☐ シニア世代 ☐ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	月 1 回
参加者数	141 (うち、新規参加者数は 人) ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	生後4～5か月児とその保護者を対象に以下の内容を実施 ・わらべうた、ふれあい遊び ・絵本の読み聞かせ ・図書館からの説明(ブックスタートの趣旨、配布物の説明、図書利用カードなど) ・児童センターからの説明(乳幼児事業、利用にあたって、利用カードなど) ・基本的生活習慣の習得に関する啓発 ・絵本引き換え ・育児相談
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ・地域の子育て支援拠点である児童センターや私立図書館を利用するきっかけづくりとして実施 ・絵本との出会い、読み聞かせの楽しさや絵本選びについて伝える。 ・つどいの広場「でんでんむし」や他の子育て支援施設の紹介をする中で、利用の促進を図り、保護者度王氏がつながるきっかけづくりとなっている。 ・乳児家庭全戸訪問等で出会った児童との再開の場となり、保護者からの育児相談を受ける中、当該家庭の現況確認ができていた。 ・事業に参加できない家庭には、絵本をもって訪問するなど、支援のきっかけになっている。 ・ブックスタート事業を通じて、赤ちゃんの成長には、心と身体の両方の発達が必要であることを考えてもらうきっかけになった。
課題	さらに事業の周知を図り、絵本を通じて楽しく豊かな親子のコミュニケーションが取れるように支援を継続する必要がある。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	3
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたいと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	介護予防・生きがいがづくり支援事業(しゃんしゃん)	担当課	福祉課
-----	---------------------------	-----	-----

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☒
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☒
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☐
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施	} ()	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。
☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業		
☐ 中止		

3 事業の評価

評価	3	概ね効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-------------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☐ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☒ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☐ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☒ シニア世代 ☐ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	火曜日～土曜日 10時～15時
参加者数	2,971 (うち、新規参加者数は)人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	手芸・ステンシル・フラワーアレンジメント・絵手紙・筆遊び など
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 60歳以上の要介護認定を受けていない(要支援までの)人に介護予防事業を行うことによって、健康寿命の延伸を図る。(令和10年度までの指定管理：社会福祉協議会) 外出すること、会話することにより利用者の健康増進に一定の効果を認められた。(アンケート結果)
課題	参加者には好評であるが、事業の認知度が低いこと、また介護事業との差別化をうまく周知できていないことにより、新規の利用者獲得に課題を認める。 また、国が生きがいがづくり活動の支援を拠点から地域へとシフトしているため、事業自体の存続も検討課題である。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	2
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	2
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	地域介護予防音楽活動支援	担当課	健康介護課
-----	--------------	-----	-------

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☐
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☒
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☐
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施 ☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業 ☐ 中止	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。 ()
---	--

3 事業の評価

評価	3	概ね効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-------------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☒ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☐ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☒ シニア世代 ☐ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	通年
参加者数	概ね200 (うち、新規参加者数は)人 ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	鍵盤ハーモニカ、合唱等の音楽活動をととして健康づくりを進めている地域に音楽サポーター(ボランティア)の派遣、楽器の無償貸与及び楽譜等教材の提供を行う。
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 体力と口腔機能の測定を実施し、鍵盤ハーモニカを練習することにより口腔機能と肺機能に有益だということが分かった。
課題	次の世代(40～60代)のサポーターとなる人の確保

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	3
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたとと思う。	

令和6年度文化芸術関連事業報告書

事業名	地域活動支援センター(ゆい)管理運営事業	担当課	健康介護課
-----	----------------------	-----	-------

1 「行政の活動目標」の該当項目

①	市民が文化芸術に触れられる場や機会の提供	☐
②	市民が個性や感性を発揮できる場の提供	☐
③	社会参加や仲間づくり、多世代・多文化の人々との交流の促進	☒
④	持続可能な文化芸術活動の促進	☐
⑤	古賀の「たから」への理解と魅力の発見、発掘	☐
⑥	古賀の「たから」の魅力を未来へ伝える人材の育成	☐

2 実施の有無

☒ 実施	※「形態を変えて実施、もしくは代替事業」「中止」の場合はその理由を下にご記入ください。	}	()
☐ 形態を変えて実施、もしくは代替事業			
☐ 中止			

3 事業の評価

評価	3	概ね効果が上がっている	今後の方向性	維持
----	---	-------------	--------	----

4 事業の概要

活用した文化芸術の分野 (複数回答可)	☒ 芸術 ☐ メディア芸術 ☐ 伝統芸能 ☐ 芸能 ☐ 生活文化 ☐ 国民娯楽 ☐ 出版物及びレコード ☐ 文化財 ☐ 地域における文化芸術
対象 (複数回答可)	☐ 幼少期(就学前) ☐ 学生(小中高大) ☐ 子育て世代 ☒ シニア世代 ☐ 全年齢 ☐ その他 ()
実施時期	通年
参加者数	145人 (うち、新規参加者数は 人) ※把握している場合のみ、ご回答ください。
内容	様々な活動を通し、介護予防や地域活動に資する技術等を習得し、地域や高齢者施設等で行われる活動を支援する介護予防サポーター(ボランティア)を養成する。 ・鍵盤ハーモニカ ・太極拳・絵手紙・詩吟・ギター弾き語り・群読・脳トレ・脳トレ体操・暮らしの中で楽しむ花・ハーモニカ・博多にわか・花野菜づくり・シャンテ 計13教室
成果	【「対象者を拡大した」「新たに取り組んだこと」などもあわせてこちらにご記入ください。】 ギター弾き語りにおいては地域からのニーズが高く、出前講座にて9回実施した。
課題	ギター弾き語り以外の出前講座の依頼が少なく、地域での活動支援につなげる必要がある。

5 事業は「市民の文化芸術活動ビジョン」に対してどの程度、貢献できたと思いますか。

	評価
① 市民が文化芸術に関心を持ち、心豊かに学び、文化芸術に触れる機会が増えたと思う。	
② 市民が市や団体等の文化芸術活動に参加し、個性や能力を発揮したと思う。	
③ 市民が文化芸術活動を通じて、新たな仲間をつくり社会や多世代の人々と積極的に交流し、それらの活動を次世代に継承したと思う。	3
④ 新たな発想で仲間と協力しながら文化芸術活動を続けたと思う。	
⑤ 市民が古賀市の文化財への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りをもったと思う。	
⑥ 市民が古賀市の文化芸術や文化財の魅力を発見し、未来に伝えたと思う。	